（明治四十一年十二月三十日第三種郵便物認可）（日刊）月曜及祭日の翌日休刊　明治四十四年三月一日（水曜日）第六百三十八號（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵税一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一圓金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢

發行兼編輯人　高木久太郎
印刷人　松久神一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所　京城新報社

京城一瞥（一）　赤毛布生

赤毛布子が初めて朝鮮に渡つた春でつい此程當地へ足踏入れたばかりの全くの新参者である、一向土地の案内なとは在留民中の名士方のお名前さへも猶く承知してをらぬ、聞けば先達て民會議員の撰挙とかゞあつて各候補者の競爭が大層激しかつたそーな、電燈仕掛の候補者名前の廣告なんか到底内地で見られぬ圖であつたと古参の友達が來ると直に話して聞かした、成程殖民地だけあつて名誉に憧るゝ人も多いと見ゑる、誤尤〳〵と迂濶り相槌を打つとオイ何だ撰挙競爭の様な事は内地も同様だよ些ねー、と友人から一喝を食はされ、コイツ失敗たイヤ此登田口が乃公の悪い癖なので蹴ても噺は注いでそれど、其を忍耐すると腹の蟲がグーと込み上げて中々承知をしてくれぬ上に大切な舌の先が爛れて困る、併て先輩から座右の銘にとて與へられた「もの言へば唇寒し秋の風」てふ名句の短冊を見ても吶辯家の負惜み位にしか思へぬ乃公の身にとつてはドウしても舌ごすの不爛を計らねばならぬといふ譯であるからマア黙忍してくれ玉へと低頭平身れ詫を述べた其餘焰の未だ消ぬ失せぬ内に又候京城一瞥なんかと鹿爪らしい標題の下に硬い事軟らかい事取り交ぜ見たまゝ聞いたまゝを書立てるとヤイ生意地な……見聞の儀を書くならよいが要らざる差出口は無用だ、新參者の癖に僭越なり控わそろーとれ叱を蒙むるは必定、なれど前申す通り差出は乃公の病、又始まつたかな位で御見逃の程偏に〳〵御願申す、さて赤毛布生が京城に來て先づ第一に眼に止まつたのが本町通りの繁華なる現象だ、往來する人は引き切りなし、車も荷車も通るは〳〵熱鬧な事は内地で聞いたよりも一倍なのに驚いたが、惜しい事には町幅が狭い其上道路が滅茶に悪い、斯申すと失禮なれど京城本町通りを通行して右顧右眄することも出來ない程に往來が混會ふ體を呈してをるのは要するに町幅が狭いからだ、見受ける所京城に住む日本人の需要品は大概此狭い町に於て供給される樣である道理で曲折の多い長い〳〵此狭い町の兩側は總て日本人向の品物ばかりを賣つてをる店ばかりだ、朝鮮人が買物をしてをるのは殆んど見當らないので、ハヽア茲でも矢張り共食ひかねと、熟々將來に考へ及んだ、是に付て乃公の意見なきにしもあらずだが其は後廻しとして先づ差當り遥麽狭い町、不規律な市街を改善して、正しいものにしたらよかんべイと思ふ、乃公ばかりでないよ初めて京城へ來た者は皆然う感ずるだろー、友人の話によると町の狭い位はまだしも雨でも降て見玉へ市街道路而かも目貫の場所とも云はれる本町通りが泥から泥田ハンカチだよ高足駄で徐々と歩いてをる元來が道路が劣惡ときてをる上に駈け來る俥は遠慮なく泥土を飛はす衣類を汚すまいと其方に氣を配ると足元れ抜けで頭轉倒とくるのだ其はとても話にならないとの事であつた是で在留民の諸士が慣れてをるとは云へ満足してをるのが不思議だ……ナニ市區改正の必要が識者の間に唱へられてをる其は結構

雜報

●汚物税廢止に就き

前紙所報の如く京城民團理事者は第四號案として居留民團税汚物掃除割賦課徴收規則廢止即ち汚物税廢止案を民會に提出したるが同案は今や七名の委員附托となり専ら調査中なるが元來委員會の議事は秘密に屬するを以て今は是れを明かに報道するを得ざれど民會多數の意向は存續に在るよしなるが是れに反して市民の殆んど全體は廢止を希望し居れり抑も理事者が汚物税廢止を思ひ立つに至りしは**中等以下**の**階級**は多大の**負擔**を蒙り寧ろ本税よりも多額の納税を爲さゞるべからざるが其反對に中等以上の階級は却つて負擔軽きもののあるは租税の原理に於て可ならざると同時に徴收上甚だ煩累にして豫定の收入を得ざるは勿論陰蔽の容易なるが爲に**脫税者**の多くを出すは珍しからず併もこれが防止の手段は尤も至難に屬し斯く不確實の税金なれば寧ろこれを廢止して他の確實なる税目の等級を引上げ補塡の道を講ずるは策の得たるものなり現に市民は汚物税を以て軽々に看過し本税に對する態度と同じからざるものあり併も汚物税の調達出來ぬ爲め延いて本税の納入をも怠るに至る故に**滯納處分**とさへ言へば汚物税其者に干係わるが如く通り相場となり居る程なり尚は汚物税一ヶ年の收入は三萬二三千圓なるが昨年四月より見れば本年は千人餘の納税者増加し居れば假令汚物税を全廢するも彼此れの差二萬圓位の缺陷を生じ這は他の等級を引上げて補塡するの計劃なりと何は兎もあれ昨今民會の一問題なれば市民も是れに多大の注意を拂ひ居るものゝ如し

●朝鮮勞夫と滿洲

山東苦力に對し淸國政府は鼠疫の蔓延せざる内は一人たりとも他省への出稼を許さゞる方針なりとの報傳はり居るもこは果して絶對的禁止なるか縦し之が禁止をなさんとするも斯の如きは實際に行ひ得らるべき事柄なるや否やは大に疑問とせざるを得ざる事なるが淸國官憲の果して山東苦力の出稼を禁止するに於ては南滿の諸工業界を始め鐵道線路上の大打撃たる事明かなれば滿鐵會社に於ては夫々講究の道を盡くし居れるも工事請負業者間には朝鮮の勞働者を使用するも一策なりとの説起り居れり只勞賃の關係及び使役方法に關して多少の研究を要すべきもの あるも彼等の生活狀態上支那苦力に比し入割内外の高賃を支拂はざるべからざる事と勞役の工程上少しく不經濟の點は免かれ難かるべしと云ふ

●水産誌第四輯

舊韓國政府時代より水産局に於て編輯中なりし韓國水産誌の第一輯乃至第三輯は既に發刊を了し尚第四輯も此際編輯済みとなり不日發行せらるゝ由なるが右水産誌は今回の第四輯を以て朝鮮全沿岸の水産調査を完結したるものにて來月限り同誌編輯の一段落を告げたり

雜錄

●平凡　みや生

私が字を書くことが至つて下手なので楷書の手本を稽古してると平凡だなど笑はれて、なぜ高尚なものを習はぬかと問はれた、何んでも普通な在り來りの事だ、人は平凡だとか陳腐だとか云つて奇抜な六ケ敷いことを善ぶ様だ、此の様な考へが向上心だとか進取だとかいふならば進取向上程時に據ると危險な怖敷い物はないと思はれる弓の練習が未熟で何うして巧にバイオリンが奏せられやう？運筆骨法を等閑にして立派な書畫を作らうと思ふのは無理ではなからうか？歷史を見ずに今の世を論せんと存るは大膽である世に謳はれる傑作の裏面には何程の練磨、研究、苦心が積まれたであらう？只時流に從ひ流行を眞似た繊巧ぶる猿の戯の様なものに何の信仰があらう確信があらう――ア、たゞ無意識……風が吹けば消ねて了ふ様なものである何と果敢ないではないか。砂の上に立派な樓閣を築くことは出來ない、ローマ城は一日で建てられたのではない平凡な地均の仕事の中にこそ雲に聳ゆる大厦高樓の偉觀の芽が萌ゆられるのである。梯子の下階を飛び越ねて上に取り付く輕業師の様なのは天才でない限り出來るものでない、私は人の目には間懶敷いと見ねても平凡だなと笑はれても其の平凡の中に深く秘せられた、寶を探し乍ら强固な永遠の地盤の上に確信と信仰と光明と生命を作つて行きたいと思ふ!!



召使れ初（二）の十二　黒法師

れ察は玄關の式臺に身を置きて、行儀よく控ゆるに、れ力は談茶を汲み來りて、心の限り饗應す、女同志は親しく、何日か詞も角も取れて、れ察は「三時はども前の事でござります、猊穴までれ手紙持參、ちと急用ござりまするで、急ぎ歩に歸りまする途中、生來の不束兒、泥濘に足滑らせて、危く轉げやうと致した機會、折柄通り掛らせた浪人衆のれ裾の端へ、跡溜が掛つたのでござります」

「その浪人衆と仰せござりますが、佐十郎でござりましたか喃」

「左樣で、ござりませぬ、黒羽二重のれ小袖に、兩刀を落し插になされた三十前後のれ方れ二人、私不調法のれ詫致しまするを、いつかなれ肯き遊ばれいで、左右より大聲、想く難い痴兒と罵つての御難題でござります」

「夫はマア〳〵」とれ力はうの無法の浪人が我見ならぬに安堵する如く、れ困り遊ばれれたでござりませうな、れ膝下の辮、こもすると左樣の御仁、市中を横行、弱い者をれ容めなさるが折節あるでござります」

「私途方にくれまして、泥…に成り代り相手する、さ來う、御突くまで、一圖にれ詫び申し上げたでせられて、忘れも致しませぬ、螺色…ござりまするが、且つふ御怨しはどの一刀にれ手を掛けさせたでござりまざりませぬ、武士のお袴に泥を塗た不埒兒、一刀に切て捨てる、と一人のれ方詞器く宣はれば、他のれ方はそれに及ばぬ、今から赤羽根萬月へ酒飲みに參るゆゑ、それへ同道酌を致せと、理不盡に仰せござります、れ使は急く時は後れまする、一期大難、什麼と致さうやうもなく、胸を騒がせて居りまする處へ、折好く通り掛らせたは御家老旦那樣でござります」

「それ、それへ佐十郎が參り掛けたでござりまするか喃」

佐十郎の名の出る毎に、れ力は吐胸を打つ如なり、れ察は語を繼ぐ「私の爲めには救の御神御來降とござりました、二人の浪人衆、理不盡に手を取らせて、今から赤羽根萬月へ同道すると、大聲に宣はする御口に、佐十郎樣の御手が懸つて、ぴしやりと御打擲、れのれ不屈、何者なれば不禮兒側敗の妨げする、そこ退くまいと、浪人衆は威丈高に罵らせまする、佐十郎樣御騒ぎの樣も無く、高が女を手籠にして、玩弄物にする法やある、我等和州郡山の浪人正木佐十郎、それの姉

す」

「作か喃、佐十郎が喃」と莞爾して「左樣に男らしい事云ふたのでござりまするか喃」

「まことに御美事なれ身の擒ね、これに關ひなく和御寮は歸らせ、後は身共が引き受けて、命懸の勝負すると仰せられた、このれ勢ひに辟易したと見ゑまして浪人衆の氣も折れ、萬事は佐十郎樣にれ任せ、私には云分ない、早や歸れと斯樣に仰せござりました、私

爲めに佐十郎樣は命の親、まことに救の御神樣、れ蔭で父の吩咐は果しまして、危い處を免れました、この御恩一言れ禮申したく、れ尋ね致したでござります」と一伍一什明白なり



東京電報（廿八日）

▲遣英艦横須賀集合　遣英艦利根、鞍馬の二艦は來る五日横須賀に集合する豫定なり

▲兩法案の修正　政友會は工場法案、置緘法案共に修正す

▲事後承諾案　朝鮮問題事後承諾案は異論多き爲め政府は緊急勅令に基づく制令を法律に基づく制令と變更し來月上旬提案すべし

▲勸銀割增證券　近々發行せらるべき勸銀債券は籤に發行せられたる勸銀債券の如く債券式を取らず以前の割增證券主義を取るべし

▲見越輸入激增　來月七日より改正關稅實施せらるゝ豫定なれば輸入商人は何れも見越輸入を爲すもの少からず現在に於ても貨物の輸入高は昨年に比し非常の多額に上り倘續々輸入を見るべし

▲教科書事件と政友會　政友會所屬の一部代議士は教科書の改訂と責任を明かにせよと決議し文部省より地方官に發したる教科書中止の通牒は彌縫策に過ぎずとし非難の聲囂々たり

▲北里博士の着京　北里博士は昨夜無事新橋に着し滿洲に於ける防疫設備は完成せりと語れり

▲喜多博士休職　南北正閏問題に關し文部省編輯官喜多文學博士は文官分限令に依り休職を命ぜらる

▲管理局長の交迭　長谷川東部鐵道管理局長は西部管理局長に任命さる

雜報

●定例長官會議　二十八日午前十時半より總督府に於て定例長官會議を開き山縣政務總監、倉富司法部長官、宇佐美內務部長官、木內農商工部長官、鈴木司稅局長、小松外事局長、明石警務總長、小城、岡本兩代等列席政務に關して打合せする處ありたり

●會社令と舊會社　會社令に基き既設會社の日本商法によれるものは一箇月以內に又舊韓國政府に於て認可せしものは六箇月以內に屆出で新法令の効力を生ぜしむべき筈にして當事者は必ず其手續を踏まざるべからざるが期限後ゝ到るも未だ總督府に申達し來らざるもの頗る多しと聞く

●萬國防疫會議と朝鮮　來る四月三日清國奉天に萬國防疫會議開會の由は既報の如くなるが地理上特別の關係ある吾が總督府よりも委員を派遣し會議に列席せしむべしと

●今後の防疫方針　朝鮮總督府の防疫設備は實に遺憾なく充實せるが倘は解氷後に於ける防疫方針に就ては北里博士の意見に徵し二十七日の同委員會に於て決定する處あり即ち行政上經濟上若は貿易上の關係に顧み緩急を參酌して施設を爲すべく近々案を具して寺內總督の裁可を乞ふ筈

東拓漁業に就て

東拓會社が西海岸に於ける漁業權を失へるは前號所報の如くなるが此事に就て當局者の意見を聽くべく農商工部水產課長庵原文三氏を訪ふ然れども氏は未だ之を知らざるものゝ如くなるが唯だ其過去に就て語つて曰く勿論前年中に於ける該社の漁業は失敗に了れり又秋季鰯漁の如きも遂に思はしからざりしは事實なり乍併漁業の性質として天祐に賴るを原則とすれば僅かに一箇年の經驗を以て直ちに成績の良否を云爲するは酷なり則ち少くとも三年を一期として斷定せざるべからず然らば該社の失敗は天の未だ祐ひせざりし結果かといふに遺憾ながら其施設の宜しきに適はざりしを認めざるを得ず故に此點に就ては當局者よりも充分の注意を與へ置けり若し夫れ東拓と雖も均しく漁業法の覊束を免れざれば其命ずる規定に背き或は又不都合の行爲あるに於ては斷乎たる處置に出づるを躊躇せず豈に其東拓たると何たるとを問はんや云々

●改正漁業令案　昨紙報道せし總督府漁業令は制令を以て規定さるべく而して同時に取締規則を制定する由なるが大体に於て舊法と大差なく所謂權利義務の關係の如きも日鮮人何等徑庭なく唯だ從來の例外的規定に於て改正を施せるのみなりと

●穀類移出稅撤廢　朝鮮より內地へ移出する穀類の關稅率引下げ問題は日韓併合前より年々在朝鮮日本人商業會議所聯合會の問題となり帝國議會每に朝鮮より委員を派遣して運動せしめたるが日韓併合の行れたる今日日鮮間の關稅は當然撤廢せらるべきものなるも四圍の事情の爲めに日鮮の關稅は十年間其儘となすことに決したれど雖も米穀の移出稅は之を撤廢すること必ずしも違法にあらざる理由あり之を以て本年も在鮮商業會議所聯合會の決議に依りて山口太兵衛氏は東上して各政黨間を運動したる結果愈々各政黨提携提出することゝなりたれば穀類移出稅廢止の前途は好望の摸樣なりと東上中の同氏より通知ありたり

●朝鮮米と外國米　神戶港輸入米穀組合の調査にかゝる四十三年年中神戶港に輸入したる外米の種別額左の如し

種別	數量	價格
朝鮮米	二、九七三、八〇〇	五五八、四七八
佛領印度	三四、九四六、三〇〇	一、三八九、五八三
英領印度	三五、二六三、四〇〇	一、一三八、九六一
暹羅	五九、五四三、一〇〇	一、七五三、六六二
露領亞細亞	四〇、九〇〇	一、一七二
合計	一三三、七六六、五〇〇	四、八三〇、八〇四

●地金輸出大頓挫　韓國銀行の地金買入に對し當京城に於て二個處の勁敵現はれ之が爲めに同行が非常の狼狽を極め居るは蔽ふべからざる事實なるが果して一月中の成績は即ち左の如くにして大頓挫を極めたり（單位圓）

年次	輸出金額	年次	輸出金額
四一年	六二、一四一	四三年	四四、二〇五
四二年	八〇七、三三八	四四年	二九、七七七

尤も此缺陷は同業者なき他の地方に依りて補足し得たるは幸なり

ペストと行政

山根代議士談

滿洲を觀察してペスト流行の慘狀を目擊したが到る處死屍累々實に悚然たらざるを得ない▲元來ペストの黴菌は寒氣に對する抵抗力頗る強く攝氏零度以下三十二度に及をでも平氣である其代り熱氣に會ふ時は忽ち死むで了まふ故に日光消毒が最も利き目がある▲今度の滿洲ペストに見て特に驚いたのは潛伏期の永い點である通例肺ペストは四日を潛伏期として在るのに滿洲のは症狀が現はれるまでに七日以上も掛かつて居る▲腺ペスト患者は數萬の罹病者中僅かに一人あつたのみだ寒氣の烈しい時は氣管支を冒かされ易いから自然肺ペストが多かつた譯だが是から追々暖かになるに隨ひ腺ペストの襲來を見ないとも限らない▲ペストと鼠族は大ひに關係がある滿洲に於て買上げた鼠を一萬以上も解剖したが一匹もペスト菌の存在を認めない尤も沍寒の爲めに彼れ鼠族の屛息して居る時期でもあろふが是から飛び出して人家を縱橫無盡に徘徊するから大げ危險である▲鴨綠江流域の防疫は既に充分に警戒されて居るから万一の虞もないと確信するが山東省方面より出入する支那戎克は大に注意を要する▲同地方は滿洲以上の慘狀を極めて居るそうだが聯絡がない爲め總督府には報告が來ない然るに滿鐵會社の日々接する情報によると實に喫驚に堪へない程である故に解氷と共に戎克の取締は殊に急務中の最要點である▲而して今度の流行に就て大に喜ぶべき現象は斯く多數の罹病者あるに拘はらず吾が內地人に殆んど絕無と言つても能い位良好なる成績を示めして居る事である▲偶々一二の罹病者ありしも直接防疫の衝に當つた醫師守川氏と哈爾賓方面に於ける醜業婦數名ありしのみ其外奉天で日本人一名ありしといふも是は日本人でも朝鮮人だ又大連に流行の兆と見たが支那苦力のみで內地人は一人も罹ない▲國家的豫防の如何に効を奏して居るかは是でも分かる膠州灣では獨逸が其境域に多數の兵を配置して防禦して居るから朝鮮と均しく何等の兆候も無い▲支那も早く吾が官憲の防疫方針に信賴すれば彼んな慘況は見なかつたのだペストでは世界中吾が國が一番苦き經驗と苦勞を嘗めて居る隨て此點に就ては最も進步して居るからね▲議會に提出して置いた萬國防疫會議開催の建議案は世界人道の上から見て最も必要の事だ然るに質問者も答辯者も不得要領の爲め今に決定しない併し東三省總督の主催で四月三日奉天に萬國防疫委員會が開かるゝから幾分か此主張が通つた譯だ▲予の提出案は大に政治を意味するので孰れ他にも倘ふ一件提出して在るから旁々閉會までに歸京して片付ける積りだ

治道の根本問題

…道路の所屬階級制定…

治道行政は總督府施政中の重要事項として算へられ現に四十四年度豫算に見るも數百里の修築費を計上し在る程なり然るに朝鮮には從來制度らしき制度の施設を見る能はず之が爲めに實地の施設に臨むで往々統一を缺ぎ或は緩急の順序を誤り其不便實に言ふべからざるものあり故に吾が內地の如く國道縣道郡道若くは町村道等に區別し所屬階級を定め置くは治道行政上の急務なりとし舊韓國政府時代よりの宿題として考究中なりしが聞く處によれば總督府に於ても勿論其必要を認め既に之を立案して寺內總督の下へ回送し在りと云ふ

●鼠疫と滿鐵旅客　滿鐵會社の旅客數は鼠疫の影響にて著しき減少を來たしつゝあるが今本月中旬に於ける旅客數及び其收入を擧げ且つ前年度同期との比較を示さんに本線の旅客數は六千六百二十五人にして其減少人員二万九千四百八十一人此收入金一萬六千六百八十七圓七十九錢にて其減少額三萬四千三百六十二圓八錢なり又

安奉線は人員三千八百二十八人此減少人員千二百六十六人なり其金額に於て三千七百五十五圓二十五錢の收入に對し二千四百九十三圓五十一錢減したるなり更らに之を合計する時は人員一萬四千百十五人に對し三萬七百四十七人減少し金額に於て二萬四百四十三圓八錢に對し三萬六千八百五十五圓五十九錢の減額を示したる譯なりと

●裁判及び監獄費　明治四十四年度に於ける朝鮮の裁判及び監獄費は總計二百五十一萬二千八百三十一圓なるが之れを細別すれば左の如し

一俸給	一、一八〇、二七九
一廳費	一五五、二五六
一旅費	一一、二〇六
一雜給及雜費	七二二、五三一
一裁判及登記諸費	三八、三一〇
一在監人費	二八五、二四九
一營繕費	二〇、〇〇〇

●警官練習所卒業式　二十八日午後三時より光化門通りなる警官練習所に於て警官練習生卒業證書授與式を擧行したり當日は明石總長臨席中野練習所長は一同に對し一場の訓示を與へ次で明石總長の訓示等あり午後三時終了したり

●憲兵警察の講話會　藥師川隊長發起となり官憲間の有志を募り講話會を催すべく計畫中のことは既記の如くなるが其常識云々は知識云々の誤字の由なれば念の爲め茲に一言し置くこととせり

●辭令（廿五日附）

朝鮮總督府中樞院副贊議　尹致旿

任朝鮮總督府中樞院贊議　李恒植　成夏國、柳興世、趙任榮、洪在夏、趙源誠、金弼熙、敍五等　吳悌泳

朝鮮總督府中樞院副贊議被仰付　朝鮮總督府中樞院副贊議　李始榮、幹東履、依願免本職（各通）

朝鮮總督府中樞院贊議　高源植、李源溶、申佑善、趙齊植、金漢奎　依願免本職（各通）

任朝鮮總督府慶尙北道參與官　崔廷德

任朝鮮總督府慶尙南道參與官（三等）　朝鮮總督府慶尙南道參與官　申錫麟

任朝鮮總督府慶尙北道參與官（三等）

●勳章佩用允許　寺內總督外有吉長官見玉局長、大城戶元秘書官、藤田大尉の諸氏は韓國皇帝陛下より贈與せられたる勳章を受領し且つ佩用する事を明治四十三年八月廿八日附を以て允許されたりと

●松永中將の消息　全國師團長會議に列する爲め岩井高級副官を從へて上の途に就きたる龍山第二師團長松永正敏男は當地出發後宮島、京都に各一泊の上二十六日第二師團留守部隊と事務打合せの爲め仙臺に趣き數日滯在の後三月二日東京に向ふべしとの報其筋に達したる由

●石塚長官の消息　母堂死去の爲め滯鄉中なりし石塚長官は二十七日東上牛込の自邸に滯在中なるが歸任期は多分三月中旬頃なるべしと云ふ

●沿岸監視と自衞團　去る二月十七日來管內防疫狀況視察の爲め出張中なりし京畿道憲兵隊長藥師川中佐は既報の如く二十七日午後五時半南大門着列車にて歸任したるが中佐の視察談に曰く本道沿岸の防疫は何れも熱心に鞅掌し晝夜の別なく沿岸を監視し居れり殊に監視哨の如きは海岸の突角にて最も展望の廣き地點に設けられ粗末のものなるも孰れも之れをものともせず簡單生活に甘んじて努力し居れり防疫自衞團は沿岸地方の洞每に自衞團を組織し洞內の壯丁三十名內外之れに加盟し互に防疫に隨ひ沿岸の警戒の爲め交る〲巡視し往き一方個人衞生の普及と淸潔法の實施の爲めに全力を注ぎつゝあり

衞生思想と地方民

衞生思想に關しては予巡視中隨所に訓戒を與へたるが惡疫の流行長怖するの風漸く生じたるものゝ如く彼の東幕地方の如きは自衞團志願者等を見るに至り自衞團の組織は恰かも衞生組合の如き觀を呈するに至れり予は曾つて年末年始に際して本道各地に特別警戒なるものを實施したることありしが例年盜賊の橫行する歲末歲始の各地方は爲めに其被害僅少なりしなり今回の防疫自衞團も寧ろ非常の

好成績を擧げつゝあるを以て此の團体の組織は啻に防疫のみに止まらず將來は衞生組合乃至消防組合等有利なる團体と面目を改めて優良なる團体の基礎を爲さしめたき希望を有し居れるが現に角地方に入りても何れも淸潔法の勵行され善良なる習慣を築きつゝあるは最も悅ぶべき現象なりといふべし云々

●葉錢引替續行　從來韓國銀行にて取扱居りし朝鮮貨幣整理事務は二月廿八日限にて一先づ閉鎖せらるゝ由なれば三月一日以後は葉錢の引替は全く出來ざるものゝ如く誤解するものありて地方によりては葉錢の變換に打步を取るものあるに至れる樣子なるも右は決して然る理由にてはなく三月一日以後と雖も日本支金庫に於て從來の如く稅金の受入又は引換はなさるゝ者也

●京城民團民會　過般來引續き開會せる民會委員會は三月一日を以て終了する筈なれば來る四日民會を開き委員會に於て調査中の諸案を審議する由なり

●汚物稅廢止に決す　二十七日汚物稅廢止問題に付委員會を開き審議の結果愈々汚物掃除料として徵收するの必要を認めざる事と原案の通り同稅廢止すべき事に決定したり

●市區改正と元內部　京城市區改正の必要は元內部時代に於ても其急務を認め客年六月頃臨時豫算百餘萬圓を要求し一部の改修を施さんとせし事あり而して該豫算額は單に京城のみならず地方道路をも包含せしが偶々併合の大革命に會ひ孰れも中止の已むなきに至れり當時の概算を聞くに民團管轄區域を別として約百四十萬圓の豫定なりしと云ふ

●民團規則案及地稅案　當民團法規則改正案及土地稅改正案の委員會は既報の如く二十七日開會審議の結果第二號案たる京城民團諸規則改正案は字句に於て多少の變更を加へたるのみにて原案の通り可決したり土地稅改正案は土地等級の組替其の他二三ヶ修正を加へ結局原案の通り可決したり

●民團火葬場增設　京城民團に於て經營すべき火葬場は愈々麻浦街道萬里峴に建設する事に決し入札の結果該經費を九千三百五十圓とし來六月中に完成の豫定にて當地壽町梶原梅太郎をして之れが工事を請負せしめたりと

●仁川第二民會開會　廿八日午後三時より同樓上に於て第二民會を開會せり

●仁川商議の決議　既報の通り仁川商業會議所にては廿七日午後七時より臨時總會を開き柴田友太郎取立課金決濟の件を附議し全金額三百六十七圓五十錢の內同人の妻より現金八十圓納付せしより差引金二百八十七圓五十錢は會議所の豫費金中より欠損として支出し塡補す又荻谷書記長は監督不行屆の廉を以て五分の一の罰俸牟田口書記は十分の一の罰俸と決し散會

●楢崎桂園氏出發　大阪每日新聞記者楢崎桂園氏は既報の如く愈々三月一日午前九時南大門驛發東上の途に就く

公人私人

▲佐久間賢太郎（土木技師）　廿七日入京本田

▲小鹿島饒（農銀開城支店長）　同上山本

▲佐藤恒太郎（牙山地方金融組合理事）　同上山本

▲三好程次郎（東亞烟草釜山支店長）　同上

▲篠田類次郎（同上平壤支店長）　同上

▲澁谷元良（忠北事務官）　同上旭旅館

▲本田幸介（水原模範場長）　入京中の處廿七日水原へ

▲波多野承五郎（三井理事）　同上開城へ

▲君塚英三郎（全州慈惠院長）　同上仁川へ

▲京龍兩驛の貨客▼

▲南大門驛乘降客　二十七日の分　乘車客　六一九　下車客　七七二

▲南大門驛荷扱高　二十七日の分　乘車賃金　一二九八、九四　貨物賃金　六八一、二二　發送　五三三噸　到着　五二二噸

▲龍山驛乘降客　二十七日の分　乘車客　一九二　下車客　二〇〇

▲龍山驛荷扱高　二十七日の分　乘車賃金　二九六、〇七　發送　一一〇噸　到着　一二五噸　貨物賃金　五〇四、五三

▲京城手形交換高▼

	金高	枚數
二月廿八日	七四、三八七、六〇	六五八

▲相場電報（明治町西村支店着電）

▲大阪株式（三月限）

銘柄	（前場）	（後場）
神戶新	三八、七〇〇	出來不申
電鐵引	出來不申	三七、七〇〇
京阪同	六五、四〇〇	六五、四〇〇
電鐵同	六五、一〇〇	六五、二〇〇
大紡同	六七、〇〇〇	六七、五〇〇
紡績同	六七、二〇〇	六七、七〇〇
大阪同	一〇八、四〇〇	出來不申
電燈同	出來不申	一〇八、六〇〇
東京同	一一三、二〇〇	一一四、二〇〇
株新同	一一三、二〇〇	一一四、二〇〇
大阪同	一三〇、五〇〇	一三一、四〇〇
株式同	一三〇、七〇〇	一三一、四〇〇
同直同	一二九、三〇〇	一三〇、五〇〇
收引同	一二九、六〇〇	一三〇、六〇〇

▲大阪期米

●廿七・前場二月止十五圓十九錢▲三月止二十七錢▲四月止四十二錢▲後場二月納會▲三月寄十五圓二十七錢▲止不明▲四月寄四十錢▲止不明

●廿八日前場二月納會▲三月寄十五圓三十二錢▲四月寄五十二錢

▲仁川米豆取引

●廿七日前場二三月出來不申▲四月寄十一圓一十錢▲最低二十三錢▲最低三十錢▲止同上

●廿八日前場二三月出來不申▲四月寄十一圓二十六錢▲最高二十八錢▲最低二十三錢▲止二十六錢

▲治外法權▼

我朝鮮米に對する內地の關稅を撤廢さすることは出來さいすれば結構の事だ、併し列國との條約上ドウシタところでコヽ十ケ年はダメだ、ダメな問題を議會でアヂテートするのは何だか無駄の樣だ▲之に反して同じ移出米の負擔輕減でも例の五分移出稅廢止の方は僅かに出來ソウな事だ、只だ恐る頑迷にして而かも無能なる我總督府財政當局者が七十萬圓の輸入減額を理由として例に因つて例の如き反對を試みんことを▲今や寺內總督は幾千万圓と云ふ事業公債を起して半島產業の振興を策せんとして居る此秋に當つて僅か七十萬圓許りの移出稅を廢することが何んだ、之れが出來ぬと云ふ位なら財政當局者はタヾだ▲昨紙報道の如く新會社令に因り今日迄に出願された會社はタッター一ッだ、而して此一ッが認可になるかドウかは今の處疑問だ▲過日の東電に宇佐川中將が豫備に入べしとの事があつた、宇佐川の豫備編入、何でもない事の樣だが解釋のしように因つては良き教訓になるのだ▲今より三年前の宇佐川は軍務局長として中々評判が良かつた、啻に評判が良かつたのみならず陸軍部內では一時彼を陸軍大臣の候補者として數へた位であつた▲嗟好漢遂に魔に魅入らる、彼は一萬八千圓と打死すべく東拓の總裁になつた、而かも現在に於ける体たらく陸軍大臣は扨置き元の椅子へも戻れぬこととなつた、思へば宇佐川の貯金は高い貯金であつたのだ▲電氣瓦斯料金引下げ運動は結構な事だが本氣にヤルのかドウか、本氣にヤルなら同盟消費迄覺悟して掛らねばダメだ



活動寫眞

覆面子

二十八日 朝の南大門驛

朝風やゝ寒きも麗らしき日の光は漢城の甍を照らして曲線の街に往來ふ人の足取り輕るげに見ゆるも快い、停車場は依然として寂寞の光景に充ちて、白衣の鮮人、長管を弄して暖爐の傍らに寝ねたるも亦之れ畫中の妙趣がある、小柄の女、左顧右眄、左手のリング釉に輝くも艶だ、待合室に小道具を山の如く積み重ねて、慇懃に**別を叙**しつゝある**夫婦**がある**得意**の歸省か、**失意**の歸郷か、之れを忖度するに苦む、大分縣高木儀三郎との木札を覺束なくも瞥見した、プラットホームを歩む、強く視線を引く、れゝ強く視線を引くものがある、**三人の少婦**は、恰かも物に怖るゝ如く、かたみに**蒼白の額**を鳩めて**私語**する、**老媼**は**悠然**として時計を仰ぐ、房々たる黒髪は安油の匂ひ高く、俯せたる眼底に一掬の露を含む、あゝ、少女は何、老媼は何、臙脂粉黛、彼れは果して女子の嗜好として之れを施せるや、手にせる赤切符は、果して近く郷黨に見ゆる為めに鋏を入れしむるや、翳める瞳(何をか**夢**む)

元來面白くも可笑しくもないから大略の筋丈けで御免蒙るべし、畑君との腐れ縁ある**桃山**遊廓**一樂樓**に**八千代**と申して樓主も持て餘して居た娼妓が居つたのが畑君と馴染であつたが此の妓都合あつて一月の十四日に**中の新地開盛樓**へ四百八十幾圓とかで鞍替し名も**金八**と改めて店出し以來と云ふもの畑君近くなつたので大喜び繁々通つて居たが或る夜の事金八から落籍してとの相談を持ち出せし畑君此れ又大喜びで二つ返事で承諾はしたが身の代金五百余圓とあるに吃驚し早速樓主に向つて三百圓に減けろと強かり男の本性を發揮しての談判も惚れてる弱身に附け込まれてが**五百圓**が鐚一文缺けても眞平御免娼妓でも落籍して見やうと云ふ位の方がマ何んですね魚でも買ふ如に減額ろの引けのどれ人柄でもありませんねど云はれて見れば一言もない次第と二月の十日現金百五十圓に三百五十圓の**小切手**(**和田**○○氏**振出**し第一銀行拂)を渡したり受取つた樓主は直ちに第一銀行に受取りに行きしに預金不足なりしも信用ある和田○○氏の事なれば銀行より電話にて「畑氏宛御振出の小切手預金不足なれど拂出して置きましようか」と問合せたるに和田氏は畑君が夫れを娼妓身請けの料とすることを癪に支へ「断つて下さい」と返答したるより茲に**不渡**小切手を振出したと云ふので危ふく訴訟沙汰ともならんとせしを**鐘**路の**某辯護士**が間に入り畑[illegible]

からぬ詮議に詮衡を重ねて品行方正學術優等なる者を採用せしにも拘らず兩管理所に奉職する登記看守○田某と稱するは既に四十の阪を二ツ斗か越へたる奴なるが常に浮き〳〵として何時も評判惡しき所より樣子を確聞するに至つて出齒り屋の性分にて故郷には然として妻子を持ちながら所は仁川新町の去る古物屋の嬶のシゲとやらに目星を付け居たるに幸ひ右の良夫某は自分の勤める管理所に物品の用達を營み居る故朝夕表面は良夫某に用事ある樣に見せかけ時折を見て話しかけ居たるが遠くて近きは男女の中途には良夫の目を忍ぶ仲となり去る日良夫の留守には役所歸りの○田を引入れ現に先日の如きは兩人手を携へて或る料亭に遊んでの歸途人に目撃せらるゝと云ふ有樣近日は双方有鳥天とはちと驚かざるを得ん……

●植竹氏の結婚

咸鏡道**清津**の貿易業にして又同地日**本人會長**なる商學士**植竹**龍三郎氏(三三)は栃木縣の多額納税者植竹三右衛門氏の令息なるが今回三井物產會社營業課長**小田柿**捨次郎氏及び北韓新報社長**淺岡**重喜氏**媒**酌に依り**大阪**の多額納税者日本海上運送火災保險會社長**右近**權右衛門氏**令孃すゑ子**(二一)と東京日比谷大神宮に於て芽出度華燭の典を擧げたり花嫁御寮は大坂堂島高等女學校出身の才媛なりと云ふ

●鮮人強盗逮捕

二月[illegible]

を働き居る惡虐至らざる無かりしより其筋にて常に其捜索に苦心し居たる折柄去る二月廿三日渭川里分遣所より憲兵伍長吉見治作以下上等兵一名及補助員二名は其捜索に赴きたるが翌二十四日午後六時長湍郡江北面德石里鎬洞なる金敬烈方に潜伏せるを發見難なく逮捕したりと云ふ其罪狀に就き目下取調中なりと

●強賊の捕縛

京畿道高陽郡求知道面三里金文錫(二四)李德仁(四三)及同道富平郡東西龍宗里四統七戸咸福童(二六)の二名は共謀して本年一月以降兇器を携へ高陽郡内を横行民家に闖入金品を強奪し被害戸數十戸金額數百圓に上りしが遂に二月十七日頃二分隊管内審把撥里分遣所探知之を逮捕し第二分隊にて取調の上檢事局送り

●**醉漢の亂暴** 愛媛縣温泉郡道後村大字持田八番戸當時南大門外朝鮮人宿屋止宿淺山仲次郎(三五)は二十七日午後六時頃青坡酒幕にて飲酒酩酊して亂暴を働き西部署に引致取調の上説諭放還

●**仁川捕鼠買上數** 廿七日二百六十八頭にして金八圓〇四錢なり

●**那波酒店の白酒賣出し** 仁川本町三丁目の同店にては精錬の杜氏を聘し白酒を試醸したる處好結果を得目下賣出中なるが時節柄賣行良好なりと

●**寫眞師の大勉強** 仁川濱町の八坂寫眞館にては今回東京より女寫眞師を招き披露旁々寫眞半額の値段にて調製する由なれば定めし繁昌するならん

仁川商店めぐり

宮町一丁目 **矢上商店**

店主丑之助氏は大阪の人明治二十七年亂雲[illegible]の為に乗じ渡鮮し見[illegible]

闘は吉生讓余十一[illegible]又二番目初午稲荷祭には各俳優十八番の藝競べをなす由にて重なる配役ば
銀行員富田讓(岩村) 同中野良藏(花房) 妻もと(堀江) 丹治重三郎(吉井) 婆れちか(松澤) 女學生西野(藤澤) 同中澤(塚本) 辯護士吉村(谷) 妻花子(東) 内山力造(小浪) 女乞食たかめ(江見) 娘りき(糸枝)

●**歌舞伎座** 人氣好況なる男女合併劇一日の替狂言は前「關取千兩幟」全七幕切「二度之艶皮齋士の曙籍朝狩屋の場」なり

●**仁川歌舞伎座** 浮れ節芝居片岡鶴之助一座は初日以來人氣澤山の好評を博し居るが今四日目も東の春駒觀音丹次の續き大車輪で演ずと

▲平民文庫▼

▲私義講義録にて法律勉強仕候へ共意味更に相判り不申候為め中止致し居り候に殘念に有之候當地は朝鮮第一の都法學者先生も澤山居住候事と被存候萬一是等先生方の中にて不憫な奴と御同情被下晝夜何れにても宜敷候條御本務の余暇御教授下さる御方有らば本欄まで乍恐縮御通知願候(困却生)▲僕は淋病には林丸とサンタールとはどちらが良くきゝますか御教示を乞ふ(一依頼生)▲南大門内外の道路の廣きは頗る便利なるも兩側の家屋低く且つ軒燈疎にして燈光街路に及ばず電柱及支柱中央にニヨキ〳〵樹立し釜山行夜行列車發車時刻以後通行せんか實に危險千萬なり殊に暗夜雨夜疾驅の車馬に逢ふの危險等何とか道幅の廣い丈けそれ丈け夜間危險の無い樣其筋の一顧を煩はす(歩行黨)▲僕は時々日韓書房へ書物を見に行く何時も人は黒山の樣だが見ると云ふ事は必ずしも喜ぶ可き現象ではあるまい(申書房)▲壽町金田寫眞館から貸出して居る京城美人の繪葉書に絶吟會員作の都々逸文句を焼きつけてあるのは一寸變つて面白ひ(繪葉書狂)▲僕は廿七日の朝八時五十二分に花町郵便局に為替を受取りに行つた掛員は時間が早いとて渡さないイヤ御尤時間を守つて勵行とは寔に可なだ否斯く有り度きものだそこで暫時待つて五十七分に特に渡して呉れと願つたが拒絶されたそんなに時間を守つてかね(仁川男)

今日の運勢

三月一日舊二月朔日四緑庚午友引定△一白 盗害横領を防ぎ保證引受等の煩を避くべし新事旅行婚談移轉準[illegible]んで吉△二黒 縁談婚談共同連盟協約の事破綻に歸し易し新事旅行轉宅凶妥囑相談効無し△三碧 家庭近親の事出捐若くは保累あり其他平和の日進んで差支なし△四緑 盗害遺失注意の事又人より容疑にもふあり新事旅行婚談移宅凶△五黄 間違ひ易し貸買取引貸借不動產上の事尤も注意すべし旅行婚談に忌む△六白 會見協商修交相談中吉協定は吉他は手扣への事紛爭不和注意すべし△七赤 艱難の日業務上一倍の注意を要す女色紛爭を戒しむ起業開店移轉旅行凶△八白 盗難衛生注意すべし諸事手控への事殊に婚談共同組合連盟に忌む△九紫 證劵印章の事故障を惹起し易し他は靜事進んで吉(本町五丁目三一館判斷)

●**天氣豫報**(自廿八日午前六時至一日午後六時) **南の風曇**

韓國銀行 第參期(自明治四十三年七月一日 至明治四十三年十二月卅一日)決算公告

貸借對照表

負債	
資本金	壹〇、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
諸積立金	貳六五、〇〇〇・〇〇〇
銀行券發行高	二〇、壹六三、九〇〇・〇〇〇
政府預ヶ金	五、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
政府貸下金	壹、貳貳〇、〇〇〇・〇〇〇
諸預り金	五、九六〇、六五〇・五六
仕拂為替手形	六四六、貳五三・七五
他店ヨリ借	六四六、〇五八・貳九
仕拂未濟配當金	四、六六貳・壹八
當期純益金	三九、八五七・五貳
合計	四三、六八四、〇三二・二〇

資產	
未拂込資本金	七、五〇〇、〇〇〇・〇〇〇
貨幣整理資金貸越	七、壹七四、五九〇・〇七
舊韓國政府國庫金貸越	壹五四、七六四・五三
定期貸	貳、壹五六、八四〇・壹壹
當座貸越	三八五、五七八・九四
割引手形	四、三三〇、八三三・四九
荷為替手形	三九八、二六〇・〇九
別途貸付金	七、五九貳、壹八六・壹八
預ヶ金	三三三、二八四・三〇
公債及社債	壹、八六五、貳四五・〇〇
他店ヘ貸	壹、七貳〇、壹四九・三四
他所建物什器	壹、貳三壹、五〇〇・三三
新築費	七壹八、八〇壹・三七
創立費	貳〇、〇〇〇・〇〇
地金銀	壹壹六、九六九・七七
金銀有高	七、九八五、〇貳八・八七
合計	四三、六八四、〇三貳・三〇

損益勘定

一金六拾九萬五千六百拾壹圓〇四錢也 當期總益金
一金六拾五萬五千七百五拾三圓五拾貳錢也 當期總損金
差引
金三萬九千八百五十七圓五十二錢也 當期純益金
金一万九千六百四十二圓四十八錢也 政府補給金
合計金五萬九千五百圓也
内
金三千五百圓也 損失補塡準備金
金一千圓也 配當平均準備金
金二千五百圓也 役員賞與金及交際費
金五万二千五百圓也 配當金(政府持株三萬株ヲ除キ殘餘七萬株ニ對シ年六分ノ割)

右之通ニ候也
明治四十四年二月
韓國銀行
總裁 市原盛宏
理事 水越理庸
理事 三島太郎
理事 木村雄次

前記各項ノ調査ヲ遂ゲ其正確ナルコトヲ認ム
監事 濱口吉右衛門
監事 伊藤長次郎